

Q&A

特徴的内視鏡所見を呈した腹痛，貧血の1例

【問 題】

症例：25歳，女性。

主訴：心窩部痛。

現病歴：19歳時に吐血した際施行した緊急上部消化管内視鏡検査で出血性胃潰瘍を認めており，前医にて止血処置を施行。再発予防にプロトンポンプ阻害薬（PPI）を服用していた。その後も時折心窩部痛が出現するため，精査目的に紹介受診した。

既往歴：出血性胃潰瘍（13，14，19歳），婦人科疾患なし。

生活歴：飲酒なし，喫煙なし。

家族歴：特記すべきことなし。

アレルギー：メロン，花粉。

血液検査所見：Hb 9.7g/dL，Eosino 3.3%，WBC 6000/ μ L，Plt 31.3×10^4 / μ L，MCV 68.7fL，Alb 4.4g/dL，IgE 893IU/mL，ガストリン 1085pg/mL，ビタミンB12 361pg/mL，Fe 36 μ g/dL，UIBC 480 μ g/dL，フェリチン 7ng/mL，抗胃壁細胞抗体陰性，血清ヘリコバクター・ピロリ抗体陰性。

上部消化管内視鏡検査（Figure 1）と病理組織所見（Figure 2）を示す。

画像所見，病理所見から考えられる診断は？

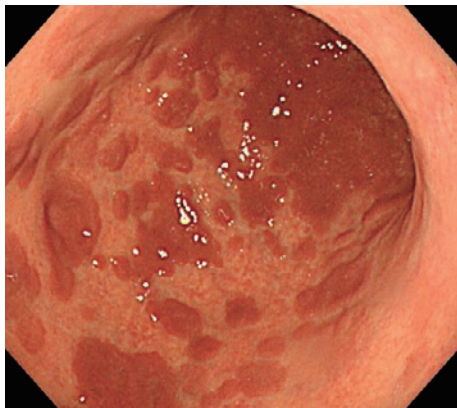


Figure 1. 上部消化管内視鏡検査所見。

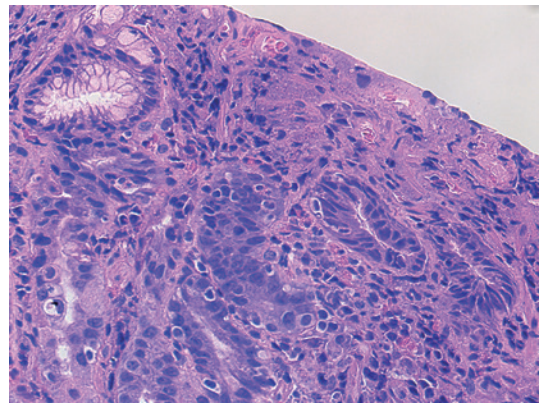


Figure 2. 胃体部陥凹部生検の病理組織所見。HE染色 $\times 40$ 倍。